



技術系公務員 理系注目の仕事 技術系公務員とは

の仕事

一般職（旧I種、II種）があります。大まかにいって総合職は理系の知識を活かしながら国の政策を作り上げていくことが求められ、一般職はその政策の実行部隊としての仕事が行われます。地方上級公務員は、地方レベルで総合職と一般職の仕事両方に携わるイメージです。

技術系公務員の採用区分については理系の専門分野を網羅しています。機械系から畜産・水産系まであらゆる分野の仕事が存在しますので、(図表下参照)自身の専攻にあった科目を選択して受験することが可能です。

国家的プロジェクトから、 地域密着の仕事まで

いま話題になっているリニア新幹線プロジェクトを例に総合職の仕事内容の一つたる環境アセスメントの基準策定、国土交通省でトンネル工法の検討などがあります。そのほか、経済産業省では日本製品の国際競争力を高めるため、日本独自の工業規格JISの品質基準を世界基準であるISOへの移行を目指して交渉するといったことを行っています。総合職には白衣を着て研究するといった業務はほとんどなく、ゼネラリスト的な働き

を求められることが多いといえます。この仕事のやりがいは、なんといっても国家的プロジェクトに名前を残す、スケールの大きな仕事に携われることです。

一般職はより実務的で、先ほどのリニア新幹線プロジェクトでは工事の進行管理業務などに携われることになります。そのほか、国の機関で公共施設の管理維持、官公庁でのリサーチ・資料作成といった仕事があり、総合職と比べるとスペシャリストとしての実務を期待される場面が多いといえるでしょう。

地方上級公務員の特色は、地方条例の立案から実行まで一通りの幅広い業務に携われることです。地方の試験場・検査場で研究をしながら条例作りに携わるなど、幅広い仕事に携われる面白さがあります。

試験対策の負担はそれほど大きくない？

公務員試験と聞くと「試験対策の負担が非常に大きい」と思われる方が多いかもしれませんが。しかし、理系の技術系公務員についていえば文系の試験ほど負担は大きくありません。というのも、文系の試験の場合は自身の専攻にかかわらず経済や法律といった専門科目すべての対策をしなければなりません。理系は専

理系学生の就職先として注目が高まる技術系公務員。しかし、試験区分の違いや、具体的な仕事内容など、よく調べなければわからない点も少なくない。技術系公務員の基礎知識からその魅力まで、LEC（東京リーガルマインド）の公務員コース専任講師、大野純一氏に話を聞いた。

※平成24年度より試験区分が変更となり、国家I種、国家II種は、新しく「国家総合職試験」および「国家一般職試験」として再編されます。

ゼネラリストの国家総合職、 スペシャリストの国家一般職

まず、技術系の国家公務員は総合職と

技術系公務員の試験区分一覧

国家総合職

工学区分

情報工学、電気・電子、機械、土木、建築、材料工学、原子力工学、造船工学などの専攻者が対象。
採用府省庁：国土交通省、特許庁など。

数理科学・物理・地球科学区分

数学、情報工学（数学系）、物理・地球科学などの専攻者が対象。
採用府省庁：厚生労働省、気象庁、特許庁など。

化学・生物・薬学区分

化学、生物、薬学、農芸化学などの専攻者が対象。
採用府省庁：特許庁、厚生労働省、農林水産省など。

農学区分

農業科学、水産、農業農村工学、森林・自然環境などの専攻者が対象。
採用府省庁：農林水産省、国土交通省など。

国家一般職・地方上級

機械職

機械系の専攻者が対象。
採用府省庁：一般職／国土交通省、警察庁など。
地方上級／全国地方自治体。

電子・電気・情報職

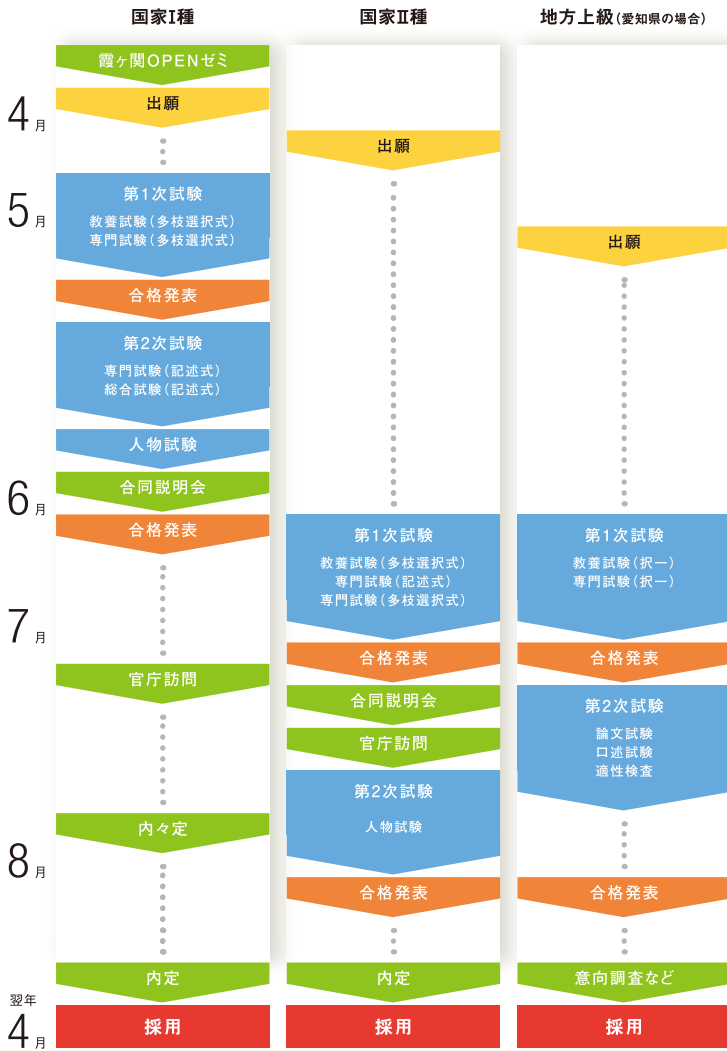
電気・電子、情報工学の専攻者が対象。採用府省庁：一般職／警察庁、国土交通省など。
地方上級／全国地方自治体。

建築職

建築系の専攻者が対象。
採用府省庁：一般職／国土交通省など。
地方上級／全国地方自治体。

土木職

土木系の専攻者が対象。
採用府省庁：一般職／国土交通省、会計検査院、経済産業省など。
地方上級／全国地方自治体。



最終合格後に行う官庁訪問は、配属を希望する府省を訪問して採用面接に臨むためのものです。府省は官庁訪問を通じて採用者を選定します。

II種は官庁訪問での面接で志望省庁から内定をもらい、かつ人事院の実施する人物試験に合格することで正式採用となります。

地方上級の合格者は地方自治体の人事委員会が作成する採用候補者名簿に氏名が掲載されることで採用につながるのが一般的です。

※正確な試験スケジュールおよび詳細な試験概要については人事院HPをご覧ください。

門科目を選択できるうえに大学の授業レベルで対応できることも多く、試験対策の負担が比較的少なく済みます。教養試験や論述試験の出題傾向を把握して対策すれば比較的短期間で合格も不可能ではありません。試験対策に1年から半年の期間を準備できるのがベストですが、教養試験対策に重点を置き、教力月の対

策で合格した学生もいます。国家総合職、一般職、地方上級などの試験対策は共通する部分が多く、併願もできるのしつかり対策すればいざいかに合格する可能性は非常に高いといえます。公務員を志望しようか迷われている方も、いまの時期から公務員試験の数的処理などを対策しておけば民間企業のSPI対策



にもなりますので、いずれの進路を選ぶにしろ損はないと思いますよ。

プロフィール
大野 純一

資格の総合スクールLEC
技術系公務員コース担当

技術系公務員の 職種研究セミナー 2011年(夏)開催予定

技術系公務員の種類とは?どんなキャリアが描ける?
合格するためにはどんな準備が必要?など、技術系公務員がよくわかる職種研究セミナーが、今夏開催決定!
詳細は決定次第「理系ナビ 2013」にてお知らせします。

<http://www.rikeinavi.com/13/>

セミナー告知

農学職

農業科学、水産、農業農村工学、森林・自然環境などの専攻者が対象。
採用府省庁:一般職/農林水産省、財務省税関など。
地方上級/全国地方自治体。

※平成24年度から試験区分が変更となります。I種、II種試験は廃止となり、新しく総合職試験および一般職試験として再編されます。最新の情報は人事院のHPなどでご確認ください。

化学職

化学系の専攻者が対象。
採用府省庁:一般職/経済産業省、財務省税関、特定独立行政法人など。
地方上級/全国地方自治体。

物理職

物理・地球科学系の専攻者が対象。
採用府省庁:一般職/気象庁、警察庁、総務省など。